

ふるさとの 水辺が危ない

利根川・印旛沼をはじめとする豊かな水辺を数多くもつ成田。絶滅が心配される希少魚類も生息するふるさとの水辺に、最近異変が起きているという。全国各地で外来魚問題を引き起こしてきたブラックバス。最近、印旛沼周辺を騒がせているカミツキガメ。そして新たな侵入者であるアメリカナマズ。これら移入種の出現により、成田の水辺の生態系が破壊の危機に瀕しているというのだ。新たな侵入者が、いつ、どのように入り、どんな影響を与えているのか、問題発生の現場を追ってみた。

成田の生態系を脅かす移入種

アメリカナマズ

【*Ictalurus punctatus Rafinsque*】

アメリカ合衆国原産。ミシシッピー川流域に多く生息し、養殖も盛んに行われている。雑食性で、1m以上に達するものもある。卵がふ化するまで雄親が保護する習性がある。利根川水系のナマズは、昭和57年に埼玉県の実験養殖場から逃げ出したものが繁殖したものと考えられている。



カミツキガメ

【*Chelydra serpentina*】

北・中南米原産。大型の淡水性カメで、甲羅の長さが40~50cmに成長する。大きな口と鋭いつめをもち、目の前のものにかみつく習性があることから、この名前が付けられている。動物愛護管理法で危険動物に指定されており、飼育には許可が必要となる。

ブラックバス

【*Micropterus salmoides*】

北米原産。1925年に芦ノ湖に移入された。釣りの対象魚としての人気が高く、その後全国の河川や湖沼に、知らぬ間に放流された。小型魚類を食い荒らすため各地で問題となっている。



希少魚類と移入種の生息分布



水辺の動植物生息調査(平成14年度に市で実施)で確認
広報課の現地調査などで確認

成田に生息する希少魚類



キンブナ

平地の川や沼地に生息。体高は低く、体色は黄褐色または赤褐色。雑食性で、特に水底にいる昆虫類を好んで食べる。千葉県RDBの要保護生物。市の調査では2地点で生息が確認された。

ギバチ

河川の上流部に生息。体長は12~25cmで昼間は物陰などに潜み、夜間に活動して水生昆虫などを捕食する。千葉県RDBの重要保護生物で、国の絶滅危惧類にも挙げられている。市の調査では2地点で生息が確認された。



メダカ

水田や用水路、流れの緩やかなところに生息。千葉県RDBの重要保護生物で、国の絶滅危惧類にも挙げられている。市の調査では7地点で生息が確認された。

千葉県の保護上重要な野生生物
(千葉県レッドデータブック=千葉県RDB)
「生物多様性の確保」という観点から、県内における絶滅の恐れのある野生動植物の現状と保護のあり方を示したもの。法的規制などの強制力は伴わない。



捕獲網を回収する小林さん



江川河口付近



成田では珍しいイシガメも

カミツキガメ

印旛沼周辺で 捕獲作戦



昨年、印旛沼近くで日本で初めてカミツキガメの繁殖が確認された。以来、テレビや新聞に頻繁に登場。繁殖地の佐倉市では、再放流を禁止する条例を作るほど深刻な問題に発展している。その発見者で、カミツキガメ研究の第一人者である小林頼太さん(東京大学大学院生)が、市内の印旛沼水域で生態調査を実施した。本紙ではこの調査に密着取材を敢行。成田におけるカミツキガメの実態を探ってみた。



今回の調査ポイント

(注) 小林さんが調査中のため、甲羅に印の付いたカメは捕獲しないようご協力をお願いします。

ふるさとの 水辺が危ない

カミツキガメの卵

昨年に続き、ことしの6月にも印旛沼(佐倉市)付近の川の土手で産卵を確認。カミツキガメは1回に日本のカメの数倍に当たる40~60個の卵を産む。写真の卵は9月にかえった



印旛沼周辺に 18枚の捕獲網を設置

9月2日、正午。小林さんのワゴン車が、待ち合わせの甚兵衛公園に到着。早速、市内の発見情報を説明し、最初の調査地点、北須賀兵衛橋機場へ。

素早く胴長姿になった小林さん、車から捕獲用の網と餌を取り出すと、餌は近所の魚屋からもらいますと、半分腐ったカツオの頭を網の中に取り付けた。そのにおいに顔を背ける記者を横目におい、「これがいんです」と自信たっぷりの表情で沼の中へ。



捕獲網を持って沼の中へ

第2地点は水産センター下の印旛沼。「これまでの調査から、カミツキガメの活動範囲は意外に狭く、半径1000mくらいの中で暮らしているようです」と小林さん。1地点に2枚の網を設置しながら第3地点の江川河口へ。各地点で機器の数値をメモ。聞いてみると水温を測定しているとのこと。ど



水温を測る小林さん

の地点も25度前後であった。

第4、5地点は江川中流域。「前年調査したところ、在来種のカメが多く、水質もいいのでカミツキガメが一番いそうなところですよ」。目の前を盛んに通過する車も、写真撮影をしながらの調査に皆興味を示しているようだ。捕獲用の網は伊勢工用網を改良したものです」とのこと。

第6、7地点は大竹地先の水路と印旛沼。特に沼は水質が良く「生息環境はいい」と小林さん。午後6時。夕闇が迫る中、第8、9地点の下方地先の印旛沼と中央水路へ。この日、全部で9地点18枚の網を設置した。

早朝から回収を開始

9月3日、午前6時。第6、7地点から引き上げ開始。水路では何も捕れなかったが、印旛沼では4匹のクサガメを捕獲。「カメは研究室に持ち帰り、甲羅に印を付



第5地点で捕獲されたカメ

ける証拠がほしい」と、数が多いこと、本来の生態系のバランスが崩れていることを指摘する。依然カミツキガメは捕獲できない。

「来て同じ場所に放します」と、専用の網に入れ車に積み込んだ。第1地点は、何も捕れず。第2地点は、クサガメ5匹。目当てのカミツキガメが捕れず、あせる記者に対し、小林さんはいたら困るんですよ」と笑顔。第4、5地点、小林さんが最も生息の可能性を抱いている場所である。期待どおり、第4地点の最初の網には在来のカメが9匹。しかし、カミツキガメの姿はない。ところが、次の網で事件は起こった。最高の生息条件の水域へ置いた網が食い破られていたのだ。カミツキガメか、という記者の問いかけに、その可能性はあるが断定はできません。ただ大きな生き物が網に入ったことは確かです。小林さんによると、江川は大繁殖している佐倉市の川に非常に環境が似ているという。続く第5地点では、26匹のクサガメを捕獲。第3地点では、クサガメ11匹。



カメの捕獲地点を記録

「成田では子ガメの捕獲情報はありませんから、また繁殖はしていないと思います。今回見つからなかったのは、成田では密度がそれほど高くないということですよ」。今後も成田については毎年調査を続けるとのことだが、このまま捕獲調査が空振りになることを祈るのみである。

外来魚から池を取り戻せ

浅間池に異変が

外小代公園(玉造)近くの山間に静かに水をたたえる浅間池。広さ7、500㎡の池は、さまざまに生き物が暮らす動植物の宝庫である。池や周囲の自然は、地元の人たちにより大切に守られてきた。

その浅間池で、ことしの5月、いつものように周辺の清掃をしていた地区役員が、水中の異変に気が

付いた。

以前は池の浅瀬にたくさん泳いでいたメダカやオタマジャクシが、まったく姿を見せないのだ。

「ブラックバスだ」。役員たちは各地で話題になっている、外来魚問題が、浅間池でも起きたことにほつ然とした。

池の水抜き作戦を実行

池に侵入したブラックバスだけを駆除するにはどうしたらよいか。みんなで考えた末に出た結論は、池の水を全部抜いてフラック

バスだけを捕獲する方法だ。

台風が近づくと5月31日、区の役員や子どもたちが見守る中、池の水抜き作戦が開始された。

水位が下がるにしたがい、水の流出口近くの水面に小さな魚が集まってきた。「ひよつとして雑魚か」。半信半疑で群れを網ですくい取った役員の表情が、見る間に曇った。すべて、ブラックバスの稚魚だったのだ。

水の無くなった池の底には、おびただしい数のブラックバスと、彼らの餌には大き過ぎるサイズに成長したフナとコイだけが横たわ

っていた。

もう一度昔の池に

かつてあれほどいたメダカやクチボソ、タナゴ、ザリガニ、カワエビなどの姿はそこには見当たらない。

「ブラックバスの被害がこれほどとは」と、唇をかむ役員。「この池はトンボの楽園。もしかするとヤゴも食べられてしまったかもしれない」と、魚以外の生き物を心配する役員もいた。

今、池は水をたたえ元の姿を取り戻したように見えるが、水中の生態系は破壊されたままである。しかし、昔の豊かな水辺を取り戻すことは、区民だけでなく多くの市民の願いでもある。地元では、黄、池にいた小魚たちを池に放す計画を立てている。



浅間池 (P3図参照)

平成7年に、市が水辺環境や緑地の保全を目的に周辺を整備した。草刈りなどの管理は、松崎区が市から委託を受けて行っている



水を抜いた池からブラックバスを網ですくう地元住民。フナやコイは下の池に放流した



メダカほどの大きさのブラックバスの稚魚と捕獲した成魚。数百匹のバスが駆除された



駆除後、池の入り口には看板が設置された

Interview

池の中の環境にも目を届けたいですね

松崎区長 森田昭男さん

昔は農業用のため池として使っていましたが、用水が整備されてからは水も抜かず、自然のままの状態になっていました。8年前、池の整備で徐々に水を抜いたときは、魚の多さにびっくりしたものです。まさかあの魚たちがいなくなるとは思ってもみませんでした。今回のことをきっかけに、これからは池の中の環境にも目を届かせていこうと、みんなで話し合ったところです。



ふるさとの
水辺が危ない



アメリカナマス

何でも食べる 悪食の大食漢 利根川で大繁殖

一日で30〜40kgも

「釣れるのはアメリカナマスばかり」、「網を上げてもアメリカナマスだらけ」。最近、安西地先の利根川で釣りをする人や、漁をする人からこんな話を耳にするようになった。関係者によると、10年くらい前から利根川や印旛沼で捕獲されるようになったという。

本当にそんなにいるのだろうか。早速、現地を訪ねてみることにした。岸辺の釣り客たちを横目に、木津政勝さん(安西)の漁に同行させてもらった。広々とした利根川から網を引き上げると、小ぶりではあるがアメリカナマスが水面に姿を現した。



アメリカナマスのほかにワニガメ、エンゼルフィッシュと、最近はいろいろなものが増えるようになったと話す木津さん(安西地先の利根川で)

「捕れるときは一日で30〜40kgも網にかかるが買ひ手がいない」と木津さん。指にえらのとげが刺さるよう、注意深くナマスを外すため息をつきながら川に投げ込んだ。

県も本格調査を開始

爆発的に増えているというアメリカナマスも、市が平成14年に行った動植物生息調査では確認されなかった。しかし、このまま増え続けられ、生息域が全市域へ拡大するのは時間の問題である。

千葉県内水面水産研究センターでは、この新たな侵略者の出現を受け、ことしから本格的な生息調査を開始している。

悪食で強い繁殖力

わたしたちが、この移入種に対抗できることがあるとすれば、放流などにより人為的に生息域を拡大させないことである。

同センターによると、「口に入るものならドジョウ、カエル、小ブナ、昆虫と何でも食べる悪食の大食漢」だそう。その食欲とともに、雄が卵を守るといふ習性からくる彼らの強い繁殖力にも警戒が必要とのことである。

これらのことを考えれば、アメリカナマスがふるさとの水辺の生態系に何らかの影響を与えることは、だれの目にも明らかではないだろうか。

Interview

本来そこにはいない魚を持って来て放せば、元々日本にいる魚であっても、そこでは“外来魚”なんです。



千葉県内水面水産研究センター
上席研究員 梶山 誠さん

ここ数年、漁業関係者からアメリカナマスが網に絡まるとか、ひれのとげでけがをしたといった苦情が増えたため、ことしから本格的な調査を始めたところです。

この魚が在来魚にどんな影響を与えるかはまだ不明ですが、小さな池などに放せばブラックバスと同じことになると思います。ただ、外国産の魚だけが問題視されていますが、ほかの場所から本来そこにはいない魚を持って来て放せば、元々日本にいる魚であっても、そこでは“外来魚”なんです。

生態系はそこにいる生き物たちのバランスが保たれることによって成り立っていますから、安易に釣った魚や飼っていた魚を、池や川に放すことは絶対やめてもらいたいですね。

世界中から輸入される

生き物たち

年間推定400万頭が
国内へ



輸入品を厳しく検査する税関職員

今回取り上げたカミツキガメなどは、元来ペットや繁殖事業用として外国から移入されたものである。これらの生き物が年間どのくらい外国から輸入されているのか、空港を抱える本市としても気になることである。

ドリガメを主体としたは虫類が占めているが、同省でも正確な数量はつかめないという。



税関で押収された輸入が規制されているリクガメ

全国の航空貨物取扱量の7割を占める成田空港、その輸入品を取り仕切る、東京税関成田支署に外来生物の輸入量を尋ねたところ「課税業務のため金額を重視しているので、動物の数量はほとんど把握できない」とのことであった。しかも、20万円以下の輸入動物は制度上統計の対象外だそうで、移入種に関する水際での実態を知ることができなかった。

輸入規制のある生き物は
数種類

現在、国が移入種に対する法整備を進めているというものの、現行法で輸入が禁止されているのは、ワシントン条約で決められている数種類に限られている。しかし、今問題を起こしているのは、合法的に国内に持ち込まれた生き物たちである。問題の原点にあるのはこれらを野に捨ててしまつた私たちの行為であることを忘れてはならない。



分類群ごとの年間推定輸入数 (環境省ホームページより)

ほ乳類	1,188,000頭
鳥類	624,000頭
は虫類	2,104,000頭
両生類	80,000頭
総計	3,996,000頭

国では...

移入種に対する対応方針まとまる

カメやトカゲなどの輸入を厳しく規制(環境省野生生物保護対策検討会)

移入種に関する問題は、一つはその種が国内の生態系に悪影響を与えることが分かっても輸入制限ができないこと、もう一つは、カミツキガメのような危険動物が繁殖しても、現在は動物愛護の観点から駆除することができないことである。特に印旛沼周辺の市町村を悩ませているのが、二点目のカミツキガメを駆除できない点である。

対応方針では、移入種導入を審査したうえで輸入を承認することや、定着しているもので環境への影響が大きい移入種の撲滅などが示されている。この方針に基づき、来年には移入種対策の新法が成立する見込みである。

移入種(外来種)による影響の事例

環境省ホームページより
関係部分を抜粋

移入種の事例	影響の種類					
	生物多様性への影響			人への影響		
	生態系のかく乱			遺伝的かく乱	財産等(農林水産業等)への影響	健康への影響
捕食	競合・駆逐	土壌環境等のかく乱				
【魚類】						
ブラックバス						
【は虫類】						
カミツキガメ						

アメリカナマズについては事例の記載なし
:国内で影響が確認されたもの
:(海外で影響が確認されるなど)国内でも影響を及ぼす可能性があるもの

ふるさとの 水辺が危ない

ふるさとの自然も歴史の一つ。 移入種による自然破壊は 歴史遺産を壊すことと同じです。

移入種問題について
識者を訪ねてみた

「カミツキガメを見つけたら
どうすればよいでしょうか。」

成田でもカミツキガメが捕獲されている
そうですが、今の法律はペットが逃げ出し
たことを想定して作られているため、野生
化したものの扱いまでは触れられていま
せん。いわば想定外の事態が起こっているわ
けで、これが関係者を悩ませているよう
です。

特にカミツキガメについては、隣の佐倉
市で条例を作りましたが、印旛沼はほかの
市町村にも続いていますから、同じ水系で
カメの扱いが違うこととなります。このよ
うな点も考えると、今は移入種問題の過渡
期といえるのではないのでしょうか。

現段階では、みなさんがカミツキガメを
見つけても手を出さないのが一番です。見
分け方のポイントとしては、しっぽが長く
ギザギザがある点です。

「各地で移入種問題などが
起きていますが。」

カミツキガメにしるブラックバスにしる
こうした移入種が国内に定着して何が問題
かというと、彼らは日本の自然を変えてし
まうからなんです。それも、どんなふう
に変わるのか予測がつかません。

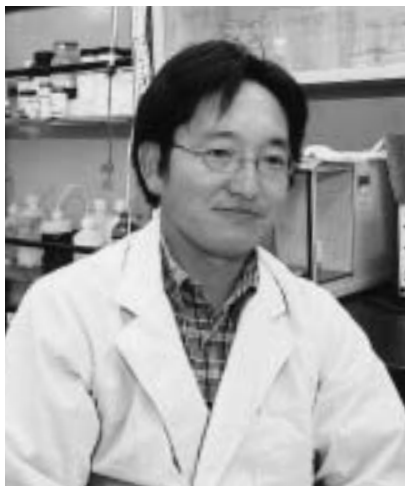
ふるさとの自然や生態系も地域の歴史の一
つと考えた場合、その中でわたしたちも
生活してきたわけです。その自然を壊すとい
うことは、大切にしてきた歴史遺産を壊

すことと同じだと思います。

「わたしたちは移入種問題に
どう対応すればよいでしょうか。」

問題となっている移入種の多くは捨てら
れたペットですから、飼う前に後のことを
よく考えることです。一度野生化すると、市
民にできることは限られてしまいます。そ
の場合、法的整備も含め行政が対策に乗り
出すこととなりますが、これはわたしたち
の税金を使うということです。自分一人く
らいなら、安易にペットを捨てる行為が
結局自分たちの負担となって返ってくるの
です。そういう意味では、ごみ問題に似て
いるかも知れませんが、移入種問題は市民に
とって、身近なものということを感じ知っ
てほしいですね。

また、環境問題に関心をもちた市民が何
をしただよいか、行政側が示すことも大
切ではないかと思えます。



移入種問題に詳しい
東邦大学
長谷川雅美 助教授

カメと魚の法令

動物の愛護及び管理に関する法律

動物の虐待防止や適正な取り扱いについ
て定めた法律で、犬猫はいうに及ばず、人
が飼っているほ乳類、鳥類、は虫類に至る
まで、これを殺し、または傷つけたり遺棄
したりすると懲役や罰金に処せられる。

問い合わせ先...^{(保)・(動)}

危険な動物の飼養及び 保管に関する条例

クマやコブラ、ワニといった危険な動物
を飼う場合の法律で、カミツキガメもこれ
らの中に入っている。飼う場合はこの法に
基づく許可が必要になる。

問い合わせ先...^(保)

千葉県内水面漁業調整規則

この法律により、ブラックバス・ブルー
ギルを県内の河川・湖沼などへ移植するこ
とが禁じられている。違反者は懲役や罰金
に処せられる。

問い合わせ先...^(水)

カミツキガメは落し物?

日本にいない生き物なので、カミツキガ
メはペット扱いになり、逃げたものが捕獲
された場合、法律上は遺失物となる。警察
で落し物と判断されると、約半年間保管し
た後、拾い主のものとなる。通常の遺失物
とは違うので、警察で保管できないときは、
拾い主に保管委託することもある。ただし、

捨てられたペットは遺失物とはならない。
問い合わせ先...^(警)

カミツキガメが繁殖している 佐倉市では

「迷惑行為の防止に関する条例」を定め、
印旛沼で捕獲したカミツキガメの再放流を
禁止している。

【問い合わせ先】

- ^(保) = 佐倉保健所成田支所 (☎ 26-7231)
- ^(動) = 県動物愛護センター (☎ 93-5711)
- ^(水) = 県農林水産部水産課
(☎ 043-223-3042)
- ^(警) = 成田警察署 (☎ 27-0110)

市からのお願い・カミツキガメは絶対に捕まえないで!!

今回の特集を参考にして、見慣れぬカメがカミツキガメと分かったら、絶対に手を出さないでください。動きが速く攻撃的で、かみつかれると大けがをします。特に頭の前に手を出すと大変危険です。捕獲も絶対しないでください。